

未来大賞

佐伯 加寿美

「何歳になってもドアは叩け」

<要旨>

スポーツ大会の会場に託児施設の設置を提案したところ、「三つ子の魂百まで、小さい子を預けることに反対」や「子どもが大きくなるまで我慢」という女性理事の反対を受けて、男女共同参画を学ぶ。

ところが講師の一言で、自分が「いい母・いい妻」の呪縛にかかっていることに初めて気づき呪縛から解かれることができる。これが転機となり専業主婦から新しい職との出会い、離婚、転職。そして2018年5月に成立した政治分野における男女共同参画推進法に背中をおされて、議員に立候補する。

男性的な選挙の仕方、選挙活動中のハラスメント等女性が出馬しにくい環境がある。女性議員の必要性、多様な方の政治参画、仕事がしやすい環境の整備は重要な課題だ。

還暦での再出発。私はこれからも市民一人ひとりの声を拾い、声を届け、そして「助けて」が言える社会を築いていきたい。そして何歳になっても門を叩き、次なるドアを開けていきたい。